

JR九州グループのESG経営

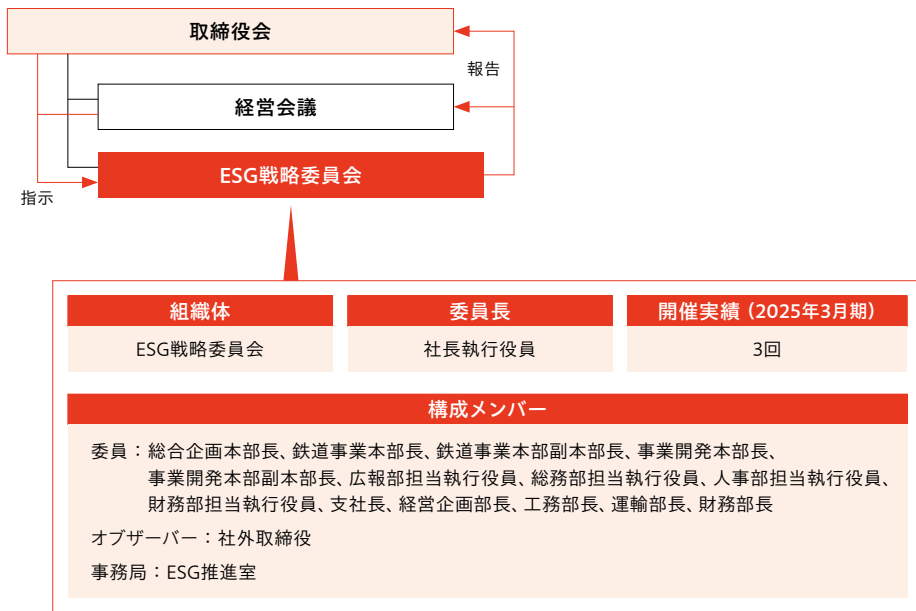
ESG経営推進体制

環境・社会・ガバナンスの各分野における取り組みを強化・推進するための審議機関として、社長執行役員を委員長とする「ESG戦略委員会」を設置しています。取締役会は議論の内容について報告を受けるとともに、執行側の取り組みを監督しています。

2025年3月期のESG戦略委員会では統合報告書の制作方針や環境ビジョンの策定について議論を行いました。

また、ESG経営を推進していくために、ESGに関する知見を有する社外取締役もオブザーバーとして適宜出席しています。

ESG経営の推進体制図



ESG戦略委員会の議題 (2025年3月期)

第14回 (2024年6月24日)	第15回 (2024年11月25日)	第16回 (2025年3月10日)
環境に関する対応状況の報告 ① エネルギー管理 ② 環境汚染物質管理 ③ 資源循環 ④ 脱炭素推進 ⑤ JR九州グループ環境ビジョン・ロードマップ策定 ⑥ 脱炭素社会の実現に向けて	① 「JR九州グループ統合報告書2025」の方向性・投資家フィードバック・非財務KPIの進捗 等 ② 環境ビジョン・ロードマップについて ③ 2035年に向けたGHG排出量削減計画 ④ ESGファイナンスの状況について	① 「JR九州グループ統合報告書2025」の編集方針・統合報告書2024の評価・非財務と財務のつながり ② TNFD提言に基づく情報開示 ③ サステナビリティ開示基準の動向・対応

取締役会報告内容 (2025年3月期)

2024年4月	TCFD提言に基づく情報開示における対象事業の拡大について 2024年度「JR九州グループ統合報告書」の編集方針について ESG社内浸透進捗状況について
2024年8月	「JR九州グループ統合報告書2024」の開示について
2025年2月	JR九州グループ環境ビジョンについて
2025年2月	JR九州グループ環境ビジョンの策定について

ESG戦略委員会における各委員・オブザーバーの主な意見

環境ビジョン・ロードマップの策定について

- 社員一人ひとりの意識向上や行動変容につながる取り組みとする必要があるのではないか
- 脱炭素や資源循環の取り組みと比較すると生物多様性は具体的な取り組みをイメージしにくい、個社だけではできないことも限られるため外部連携が重要

非財務KPIについて

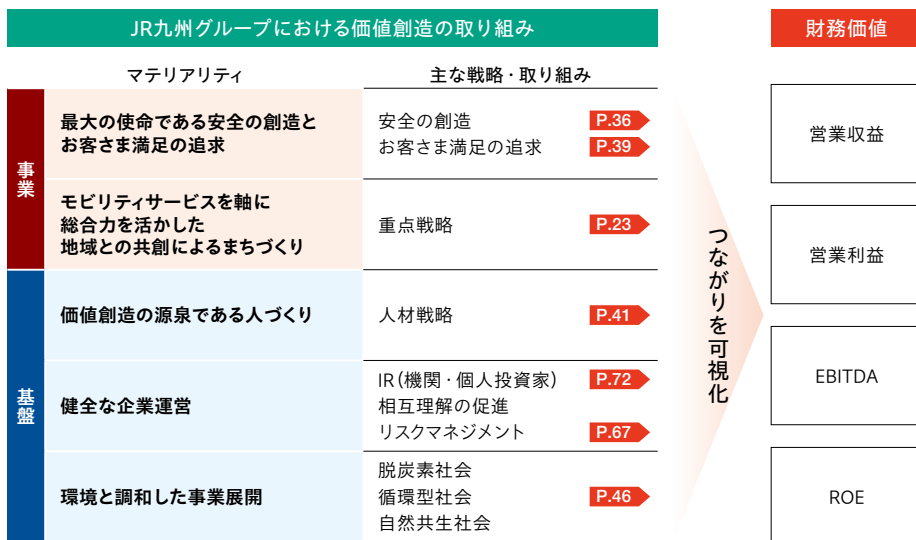
- ダイバーシティによる業績向上を直接証明するのは難しいが、意思決定機関に多様な視点を取り入れることで、不祥事やリスクを回避できる可能性は高いのではないか
- 育児に関わる非財務KPIがあるが、育児支援だけでなく、多様な背景を持つすべての従業員が働きやすい環境づくりが重要

JR九州グループのESG経営

持続的な財務価値の創出に向けて

当社では、非財務活動が、財務価値や企業価値、さらには社会的価値にどのような影響を及ぼすかを継続的に検証し、非財務活動への投資を最適化し続ける状態を目指しています。

昨年度よりその前提となる論理的な仮説構築に着手し、トライアルとして1つの非財務活動を起点とした財務価値へのつながりの可視化に取り組んでいます。

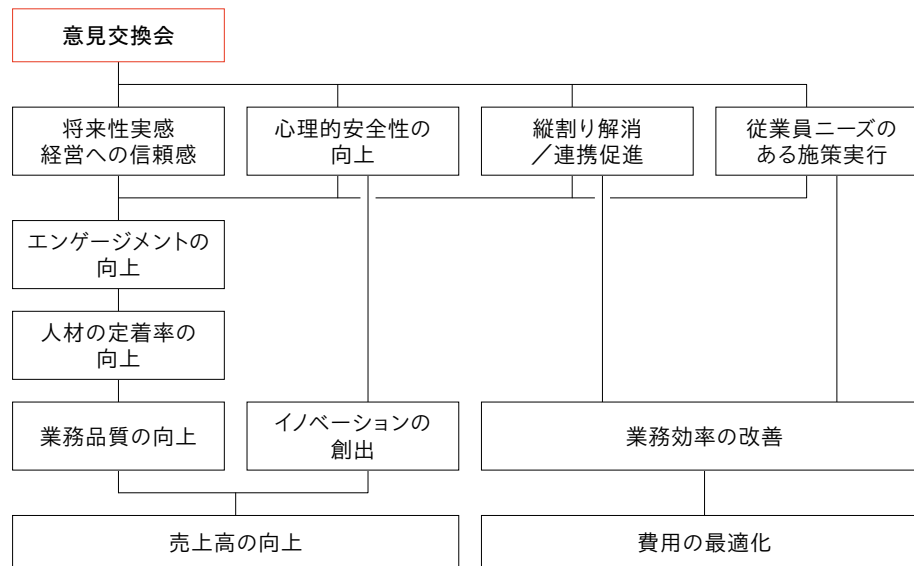


仮説の設定（非財務活動と財務価値のつながりに関する一例）

仮説設定の対象として、経営層が特に注力してきた“意見交換会”を選定しました。

P.43 意見交換会

検討の結果、意見交換会は、経営ビジョンの浸透や心理的安全性等のエンゲージメントの要因の向上及び部署間連携の進展といった過程を経て、顧客満足度の向上や新サービスの創出が促進され、財務価値につながっている可能性があります。



今後の非財務情報可視化の展望

意見交換会を一例とした仮説設定を踏まえ、非財務活動から財務価値へのつながりを可視化する活動の対象を広げます。非財務が与える影響を適切に捉え、経営戦略及び事業戦略の実現、さらには企業価値向上を目指し、効果的な非財務活動の実行に向けたPDCAサイクルを推進することを想定しています。